



新設帝国大学の経営--東北帝大第二代総長北候時敬 の引継書類から--

著者	佐藤 健治
雑誌名	東北大学史料館紀要
巻	4
ページ	45-63
発行年	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/39855

新設帝国大学の経営

ー東北帝大第二代総長北條時敬の引継書類からー

佐藤 健 治

はじめに

大学史にとって草創期が重要であることは論を待たないであろう。それは私立であれば設立の理念に関わるものであり、国公立であれば政策の一環として役割を与えられ、ともに以後の大学の進む道に大きな影響を与えたからである⁽¹⁾。

ここに紹介するのは東北帝国大学第二代総長北條時敬の引継文書であり、ここから草創期東北帝大の具体的な大学建設の経過とその時点でのさまざまな問題点を示すことで、新設されつつあった帝国大学の運営の一事例としたい。

東北帝大は明治40年(1907)9月1日創設され、内容としては札幌農学校を東北帝大農科大学としたものであった。官制もはじめ「東北帝国大学農科大学官制」として定められ、総長の職務は農科大学長が行うこととなっていた。明治44年1月1日に「東北帝国大学官制」が施行され、農科大学のほか仙台に理科大学が設置されることとなり、総長も専任者が置かれる。初代総長には澤柳政太郎が任命され、明治44年3月24日から大正2年5月9日までの2年余り在任している。しかし澤柳には、個々の簿冊に残されている決裁文書を除けば、草創期東北帝大に関わる文書等に乏しいのが現状である。

これに引き換え第二代総長北條時敬(大正2年5月9日から大正6年8月25日在任)については、従来『廓堂片影』⁽²⁾所収の日記のみならず、北條が学習院長に転任する際に作成した『引継事項』が残されていることは知られていた。さらに今回、『東北大学百年史』編纂の過程で、新たに北條の引継書類が発見されたので、この引継書類を中心に『引継事項』との関係や、引継書類に残された個々の文書について、北條の日記などから史料の位置づけを明らかにしていく⁽³⁾。これにより北條総長が在任中に行ったこと、または進行形のこと、将来行おうとしていたことなどが明らかとなり、新設帝国大学のさまざまな取り組みの一端を示すことができればと思う。

一 北條総長の引継文書

北條時敬は安政5年(1858)金沢に生まれ、東京大学理科大学卒業後、第一高等中学校教諭、山口高等中学校教授・同校長、第四高等学校長、広島高等師範学校長などを歴任して、大正2年5月9日に東北帝大総長に就任する。56歳であった。在任4年余りにして大正6年(1917)8月25日、学習院長に転任する⁽⁴⁾。

北條の学習院長転任に関する経過は次のようであった。大正6年7月31日にまず元東京帝国大学総長の濱尾新から「学習院ノ事」の話がある。内々に学習院長への転任打診であったであろうか。8月9日に文部大臣より上京命令の電報が届き、11日に岡田文相を私邸に訪れると、「用談卒然」と学習院長への転任話を切り出されたようである。この日の午後に波多野宮内大臣を官邸に訪問すると、「内談周密ナリ、辞退スルモ聞カレズ、決答ヲ猶予シ、熟考スベシトテ退出」するのが精一杯であった。この時には、政府は北條学習院長の線でかたまってお

り、あとは北條が承諾するのみだった。以後、北條は東大総長の山川健次郎に学習院長辞退の仲介を依頼するが反対されたり、岡田文相に「懇談、情ヲ尽」くして辞退、宮内次官とも懇談し、院長辞退の挨拶をしている。このように北條ははじめ学習院長就任辞退の意志は固かった。

17日に北條は文部次官室にて会計課長・専門学務局長と大正七年度概算を協議していると、新聞記者六七人が闖入、「学習院長問題ニ関シ、露骨ナル質問ヲ連発」されるが、北條は答弁を避けている。18日に新聞記者から逃れるため御殿場に行き、19日はまた東京へ戻って学習院長就任を決意したようである。22日には仙台に戻り、25日に学習院長への転任が発令となり、即日電報にて北條自身も知るところとなる。その後も北條は残務処理のため仙台にとどまり、30日に「書類点検、引継事項ヲ調べ、寄附スベキ書籍ヲ区分」、31日に「引継事項ヲ調べ」、9月1日には官民合同送別会が催され、翌2日に仙台を発っている。

よって学習院長転任に伴う総長職の引継に関して、北條は8月19日に学習院長就任を決意し、25日に発令、30・31日で引継の書類・事項を調えるということになる。現在、東北大学史料館に所蔵されている『引継事項』と引継書類は、大正6年8月30日・31日に北條が点検し調べたとする「引継事項」と「書類」に該当するであろう。

「表1 北條総長の引継事項」は東北大学史料館蔵の『引継事項』から、その項目のみを書き出したものである⁽⁵⁾。これだけでも当時の総長の具体的な職務内容や、草創期東北帝大が課題としたことを知ることができる。『引継事項』は大きく「(一) 本部」、「(二) 人事」、「(三) 医科 附医院」、「(四) 工科大学」の四つに分けられ、「(二) 人事」についてはさらに「(イ) 理科」、「(ロ) 医科及医専 附病院」、「(ハ) 工科及工専」と部局ごとに分けられている。それぞれ2から18項目を配しており、項目だけで終わっているものもあれば、さらに詳しい説明が記されている項目もある。

また引継書類の方は、『一般経営書類』、『医科創業経営書類』、『理化学研究所ニ関スル書類』、『研究又ハ施設に関し教授提出意見書類』の4袋からなり(写真参照)、それぞれの袋には数点の資料から多い袋には30点以上の資料が収められている。その内容を「表2 北條総長の引継書類」として示す。ここには大学の事務決裁文書はなく、北條宛書簡やメモ類が多く入っている。引継書類には後述のように次の福原総長就任時のものも入っているが、全体としてみた場合、基本的には大正6年8月30日に北條が点検した結果であり、北條が総長職の引継に必要と認識した書類であることを表している。また年月日の入ったものとしては、大正4年4月30日の「協議要録」(表2の3-3。以下表2の番号のみ記す)から大正6年10月16日の「理科大学臨時理化学研究所収支調」(3-32)まであり、ほか年紀の記されていない資料も半数以上にのぼる。

さてこれら『引継事項』および引継書類は、いつだ



写真 北條総長の引継書類
(東北大学史料館所蔵。表2参照)

表 1 北條総長の引継事項

引継事項

<p>(一) 本部</p> <p>七年度予算</p> <p>完成計画</p> <p>敷地拡張</p> <p>工専存置</p> <p>医専及工専ノ処分</p> <p>海外留学生</p> <p>磁鉄ノ特許ニ関スル件</p> <p>「サトウライト」株式会社ヨリノ寄附金ノ性質及将来</p> <p>工業化学研究所ノ設立并ニ大学トノ関係</p> <p>本学研究所及教授又ハ研究者ト理化学研究所トノ関係</p> <p>札幌農科ノ分離</p> <p>本大学ノ主義</p> <p>出版物</p> <p>図書館處務ノ議定</p> <p>将来ニ図書館ノ設立并ニ其公開ヲ期スルコト</p> <p>学生監の専任者</p> <p>賞勲局ニ申請ノ件</p> <p>黒田寄附金ノ未納金</p>
<p>(二) 人事</p> <p>(イ) 理科</p> <p>岩崎氏ノ前途ト応用地質ノ問題</p> <p>大湯氏留学ノ件</p> <p>(ロ) 医科及医専 附病院</p> <p>柿澤氏ノ件</p> <p>遠山、佐藤二氏留学ノ件</p> <p>藤田氏任用ノ件</p> <p>関口氏 欧州出張ノ件</p> <p>小柳氏留学中別途研究費ヲ得ル件 (附小玉氏ノ件)</p> <p>和田氏大学ニ任用ノ件 (附田所医学士)</p> <p>小児科ニ於テ佐藤ト泉二氏関係ノ件</p> <p>山形氏ノ件</p> <p>古川氏ノ件</p> <p>田総氏及竹田氏ノ件</p> <p>伊藤弥恵治ノ人物及高森医学士ノ人物</p> <p>外科辻氏助教授ニ採用ノ件</p> <p>小酒井氏ヲ衛生学研究ノ為メ留学セシムル件</p> <p>山上氏ヲ京都福岡ニ出張セシムル件</p> <p>(ハ) 工科及工専</p> <p>平山、八木、抜山三氏大学ニ採用ノ件</p> <p>宮城、砂谷二氏同上</p> <p>工専湯浅ノ人物</p> <p>宮城氏後任者ハ将来大学ニ擢用ノ予定ニテ左ノ候補者ヲ得</p> <p>村上氏ヲ冶金研究ノ為メ留学セシムル件</p> <p>後藤正治并ニ井上講師 (東大工科) ヲ工科冶金学科ニ動カシ採用ノ件</p> <p>新保氏ノ件</p> <p>小田川達朗氏復帰ノ件</p> <p>井上仁吉氏転任時期ノ件</p>
<p>(三) 医科 附医院</p> <p>病院増築案</p> <p>敷地拡張</p> <p>病院處務ノ改革及情実打破</p> <p>解剖教室ノ玄関ニ関スル件</p> <p>生理学配当金ノ増加</p> <p>解剖学ニ配当金ノ件</p> <p>医科学生募集ノ方法ハ大正七年ヨリ改正ノ必要アラン</p> <p>山川氏伝染病講座ノ件</p> <p>泌尿器科講座ノ件</p>
<p>(四) 工科大学</p> <p>名称問題</p> <p>工科ニハ機械、電気、冶金、採鉱、応用化学 (製薬化学ノ講座ヲ附設ス) ヲ置ク件</p> <p>採鉱冶金ニ科新當設備再調ヲ要スル件</p>

※ この表は東北大学史料館所蔵の『引継事項』から、分類のタイトルと一つ書きの項目のみを抜き出したものである。分類タイトルの数字は元「(二) 医科 附医院」「(三) 工科大学」であるが、それぞれ (三) (四) に改めた。

表2 北條総長の引継書類

番号	年月日	表題	作成・差出	宛先	形状	印刷	員数	法量	一括	備考	『廓堂片影』 関連記事
1- 1		一般経営書類			袋「東北帝国大学用」		1点	31.0 ×23.0		破損	
1- 2	大正4年 10月25日	[小倉金之助学位審査令達]	文部大臣 法学博士 高田早苗	東北帝国 大学総長	便箋「文部省」		1点 (2紙)	28.0 ×20.1		博専167号、 朱印あり、小 倉金之助履 歴書添付	
1- 3		取調事項			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	25.4 ×17.5			T5. 7. 12
1- 4		実験費(薬品)配当予算 不足額調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.4 ×37.9			T5. 9. 30
1- 5	大正5年 9月30日	理科大学人件費推算調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.4 ×37.9			
1- 6	大正5年 10月	引継演舌書	黒田賢一郎	東北帝国 大学総長 北條時敬	便箋 「東北帝国大学」		1点 (3紙)	25.3 ×17.5			T5. 10. 4
1- 7		施設其他計画ニ関スル卑見			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.0 ×33.8	}		T5. 10. 4
1- 8		人事ニ関スル件			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.0 ×33.8			T5. 10. 4
1- 9	(大正6年) 2月5日	六年度予算			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.1 ×17.6			
1-10		大正六年度予算増加要 求額内訳			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.5 ×38.0	}		
1-11		応用化学科完成予算調書			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.5 ×38.0			
1-12		継続費支出年度区分表			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.5 ×38.0			
1-13	大正6年 7月31日	大正七年度政府支出金額調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.4 ×37.9			T6. 7. 31
1-14		七年度政府支出金支弁額表			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	26.5 ×38.0			T6. 8. 5
1-15		大正七年度東北帝国大学 歳出経常費概算調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	26.5 ×19.0			T6. 8. 16
1-16		南部敷地拡張ノ境界図					1点 (2紙)	20.5×26.9, 19.5×27.2		破損甚だし、 2紙に分断	T6. 8. 25
1-17		大正五年度文部省所管東北帝 国大学歳入歳出決定計算書			便箋 「東北帝国大学」		1点 (16紙)	28.2 ×20.2			
1-18		大正六年度東北帝国大学 校費各部局配当一覧表			便箋 「東北帝国大学」		1点 (5紙)	28.2 ×20.2			
1-19		大正六年度東北帝国大学 歳出決定額対令達予算額 増減一覧			便箋 「東北帝国大学」		1点 (3紙)	26.4 ×19.0			
1-20		東北帝国大学医科大学 設備費一覧			便箋 「東北帝国大学」		1点 (3紙)	28.2 ×20.2			
1-21		大正六年度医科大学 予算配当調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	28.1 ×40.4			
1-22		医科大学配当予算中外科内 科ニ於ケル内部ノ分配状況			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	28.1 ×40.4			
1-23		大正六年度工学専門部経費			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	25.3 ×17.2			
1-24		七年度概算			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.6 ×17.3			
1-25		工科大学設備費			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	25.3 ×17.2			
1-26		[講師年額一覧]			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	25.2 ×34.8			
2- 1		医科創業経営書類			袋 「東北帝国大学」		1点	31.2 ×22.3			
2- 2		医科大学開始ニ関スル 準備事項			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	25.1 ×34.3			
2- 3		東北帝国大学医科大学医 学科入学ニ関スル希望				コンニャク版	1点 (1紙)	27.1 ×39.0			T4. 4. 16
2- 4		東北帝国大学医科大学 入学手続ニ関スル件			便箋 「東北帝国大学」	コンニャク版	1点 (2紙)	25.3 ×17.6			

番号	年月日	表題	作成・差出	宛先	形状	印刷	員数	法量	一括	備考	『廓堂片影』 関連記事
2- 5	大正 4 年 7 月	東北帝国大学医科大学規程				活版	1 点 (1紙)	38.7 ×54.5		表書(朱筆)「授業課程臨時変更学科配置」	
2- 6	大正 5 年 7 月 13 日	医院施設其他改良事項案			便箋 「東北帝国大学」	コンニャク版	1 点 (1紙)	25.3 ×34.8]		T5. 6. 21
2- 7		看護婦ニ関スル件			便箋「東北帝国大学 医科大学附属医院」	ガリ版	1 点 (3紙)	24.7 ×16.2			T5. 10. 3
2- 8	(大正 5 年) 11 月 24 日	医大各教室経費現在残			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	25.3 ×34.8			T5. 11. 22
2- 9		〔医科大学附属医院増築 図面〕					1 点 (1紙)	40.6 ×54.5			T6. 6. 30
2-10		四年度五年度医科大学 経費配当一覧表			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	25.3 ×34.8			
2-11		大正六年度予算			便箋「東北帝国大学 医科大学附属医院」		1 点 (1紙)	25.7 ×17.5]		
2-12	大正 6 年 10 月 15 日	大正六年十月十五日現在 患者調			便箋「東北帝国大学 医科大学附属医院」		1 点 (1紙)	25.7 ×17.5			
2-13		附属医院職員			便箋「東北帝国大学 医科大学附属医院」		1 点 (3紙)	25.8 ×17.7			
2-14		〔全国大学病院等比較一覧表〕			切紙		1 点 (1紙)	20.5 ×23.5			
3- 1		理化学研究所ニ関スル書類			袋「東北帝国大学」		1 点	31.1 ×23.1			
3- 2		不燃性セルロイド研究 設備費			便箋 「東北帝国大学」		2 部 (各3紙)	26.5 ×19.0			T4. 4. 17
3- 3	大正 4 年 4 月 30 日	協議要録	佐藤定吉、 塩原又策		便箋 「東北帝国大学」		1 点 (3紙)	26.3 ×19.1		写	T4. 4. 30
3- 4		合金特ニ鋼鉄ニ関スル 研究機関			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	24.1 ×32.4			T4. 12. 13
3- 5		奨学費寄附願			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	25.0 ×34.6		書式ひな形	T4. 12. 13
3- 6	大正 4 年 12 月 31 日	〔書簡〕	鈴木馬左也	北條時敬	封筒共		1 通 (中身1点、 2紙)	書簡 18.1×81.3 (①36.5、 ②44.9)、 封筒 20.0×7.5			
3- 7	大正 5 年 1 月 4 日	〔書簡案文〕	北條時敬	鈴木馬左也	便箋 「東北帝国大学」		1 点 (2紙)	25.8 ×18.0			
3- 8	大正 5 年 1 月 14 日	〔書簡〕	鈴木馬左也	北條時敬	封筒共		1 通 (中身1点、 2紙)	書簡 18.2×69.3 (①52.0、 ②17.4)、 封筒 19.9×7.6			
3- 9	大正 5 年 7 月	〔塩原奨学寄付金額〕			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	25.6 ×17.2			
3-10	大正 5 年 10 月 19 日	サトウライト製造会社 ヨリ発明者並ニ大学ニ 対シ利益提供更定ノ案			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	24.9 ×34.6			T5. 10. 19
3-11		サトウライト株式会社 ヨリ大学ニ寄附スル金 額ニ関シ計算			便箋 「東北帝国大学」		1 点 (8紙)	17.3 ×25.6		縦長便箋を 横に使用	
3-12		サトウライト株式会社 設立趣意書、目論見書、 収支予算書、定款	サトウライ ト株式会社 創立事務所		冊子	活版	1 冊 (11紙)	22.4 ×15.1			T5. 11. 2
3-13	大正 5 年 11 月 1 日	〔書簡〕	山本遷、 黒澤惇造	北條時敬	便箋「東北帝国大 学理科大学臨時 理化学研究所」、 封筒なし	カーボン複写	1 点 (2紙)	24.1 ×17.4			T5. 11. 3
3-14	大正 5 年 11 月 1 日	〔封筒〕	山本遷、 黒澤惇造	北條時敬	封筒「東北帝国大 学理科大学臨時 理化学研究所」、 中身なし		1 点	19.8 ×8.4			T5. 11. 3
3-15		理化学研究所第一部 経費予算			便箋「東北帝国大 学理科大学臨時 理化学研究所」		1 点 (3紙)	25.7 ×17.6			T5. 11. 3

番号	年月日	表題	作成・差出	宛先	形状	印刷	員数	法量	一括	備考	『廓堂片影』関連記事
3-16	大正5年 11月4日	〔書簡〕	三共株式会社内 発起人総代 大橋新太郎・ 植村澄三郎・ 塩原又作	北條時敬	状	活版	1点 (1紙)	19.5 ×32.3			T5. 11. 4
3-17	大正5年 11月4日	〔封筒〕	サトウライ ト株式会社 創立事務所	北條時敬	封筒「サトウライ ト株式会社創立事 務所」、中身なし		1点	26.0 ×9.6			T5. 11. 4
3-18	大正5年 11月11日	〔書簡〕	サトウライ ト株式会社 創立事務所	北條時敬	封筒共、封筒「サト ウライト株式会社 創立事務所」、便箋 「三共株式会社」	活版	1通 (中身1点、 1紙)	書簡 24.8×17.4、 封筒 19.8×7.8		朱印あり、 印文「南」	
3-19	大正5年 11月17日	〔書簡〕	サトウライ ト株式会社 創立事務所	北條時敬	便箋「三共株式会 社」、封筒なし	カーボン複写	1点 (1紙)	24.7 ×17.4	3-25 と括る	朱印あり、 印文「南」	T5. 11. 17
3-20	大正5年 11月20日	〔サトウライト株式会社 創立総会案内〕	サトウライ ト株式会社 創立委員長 大橋新太郎	北條時敬	状	活版	1点 (1紙)	25.1 ×39.7		割印あり	
3-21	大正5年 11月25日	〔書簡〕	塩原又策	北條総長	便箋「三共株式会 社」、封筒なし	カーボン複写	1点 (4紙)	24.8 ×17.5			T5. 11. 28
3-22	大正5年 11月25日	〔封筒〕	塩原又策	北條時敬	封筒 「三共株式会社」		1点	20.5 ×8.4			T5. 11. 28
3-23	大正5年 12月4日	サトウライト株式会社定款			冊子	活版	1冊 (4紙)	22.5 ×15.0			
3-24	大正5年 12月5日	創立総会決議通知書	サトウライ ト株式会社		冊子	活版	1冊 (4紙)	22.5 ×15.0		附株主名簿	
3-25	大正6年 5月1日	〔はがき〕	サトウライ ト株式会社	北條時敬	はがき	活版	1点 (1紙)	14.2 ×9.1	3-19 と括る	割印あり	
3-26	大正6年 5月13日	〔書簡〕	塩原又策	北條総長	封筒共、便箋「三共 株式会社」、封筒 「三共株式会社」	カーボン複写	1通 (中身1点、 1紙)	書簡 24.8×17.4、 封筒 20.8×8.4			
3-27	大正6年 7月6日	〔株主総会案内〕	サトウライ ト株式会社 取締役会長 大橋新太郎	株主 北條時敬	封筒・はがき共、 封筒「サトウライ ト株式会社」	活版	1通 (中身は 書簡1点・ はがき1点)	書簡 24.3×16.5、 はがき 14.1×8.9、 封筒 20.7×7.8		書簡に割印あり はがきは株主 総会委任状	
3-28		〔土木・機械・電気敷地 費用等内訳〕			便箋「文部大臣官 房建築課」		1点 (1紙)	25.6 ×17.8			
3-29		〔土木・機械敷地費用等 内訳〕			便箋「文部大臣官 房建築課」		1点 (1紙)	25.6 ×17.8			
3-30		東北帝国大学敷地拡張 計画			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.6 ×17.3			T6. 8. 25
3-31	大正6年 8月23日	〔電報および訳文〕	盛岡市長 北田親氏	東北帝国 大学総長 北條時敬	便箋 「東北帝国大学」		1点 (3紙)	25.2 ×17.3			T6. 8. 25
3-32	大正6年 10月16日	理科大学臨時理化学研 究所収支調			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	26.9 ×38.3			
3-33		臨時理化学研究所			便箋 「東北帝国大学」		1点 (2紙)	25.3 ×17.8		職員名簿	
3-34		第一研究所職工			便箋 「東北帝国大学」		1点 (1紙)	24.9 ×34.7			
3-35		〔新会社設立構想〕			便箋「東北帝国大 学理科大学臨時 理化学研究所」		1点 (5紙)	25.7 ×17.6		工業化学研 究所関係か	
4- 1		研究又は施設に関し教 授提出意見書類			袋「東北帝国大学用」		1点	31.1 ×22.0			
4- 2	大正5年 11月6日	〔要望書〕	東北帝国大学 医科大学 解剖学教授 布施現之助	東北帝国 大学総長 北條時敬、 東京帝国 学士会院	状		1点 (1紙)	21.3 ×27.4			T5. 10. 21
4- 3		〔要望書〕	西成甫		便箋 「東北帝国大学」		1点 (3紙)	25.6× 17.2			T5. 10. 21

番号	年月日	表題	作成・差出	宛先	形状	印刷	員数	法量	一括	備考	『廓堂片影』関連記事
4- 4	(大正 5 年)	〔要望書〕	病理学教室 木村男也		便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	35.0 ×25.3		朱印あり	
4- 5	(大正 5 年)	大正六年一、二、三ヶ月間。解剖用、講義用、実習用(病理組織実習及病理解剖実習)トシテ絶対的必要品 薬品	(木村男也)		便箋 「東北帝国大学」		1 点 (2紙)	25.3 ×17.6			
4- 6	(大正 5 年)	大正六年一、二、三ヶ月間。解剖用、講義用、実習(病理組織及病理解剖実習)用トシテ絶対的必要品 材料及雑品	(木村男也)		便箋 「東北帝国大学」		1 点 (3紙)	25.3 ×17.4			
4- 7	(大正 5 年)	備品	(木村男也)		便箋 「東北帝国大学」		1 点 (1紙)	25.3 ×34.9			
4- 8		理科大学及化学科に関する意見	片山正夫	北條総長	便箋 「東北帝国大学」		1 点 (5紙)	25.3 ×17.4			

※この表は東北大学史料館所蔵(人事課旧蔵)の『一般経営書類』、『医科創業経営書類』、『理化学研究所ニ関スル書類』、『研究又ハ施設に関シ教授提出意見書類』をまとめて、「北條総長の引継書類」として一覧表にしたものである。
表の番号は、親番号について『一般経営書類』を1、『医科創業経営書類』を2、『理化学研究所ニ関スル書類』を3、『研究又ハ施設に関シ教授提出意見書類』を4とし、枝番号についてそれぞれを取めた袋を1として、以降所収資料の年代順に番号を付した。
年月日と作成者・差出について、不明な場合でも、資料内容から判断できるものは、()を付けて記した。
表題には資料の原題を記したが、原題のないものは内容・形状から筆者が与えた。その場合は表題に〔 〕を付けた。
形状について、袋・便箋・封筒に印字がある場合、「 」にて記した。
員数について、冊子は冊、書簡は封筒と中身がそろっている場合のみ通、ほかは点の単位を用いた。同じものが複数ある場合には部を用いた。
またそれぞれの紙数を記した。
法量は縦×横、単位はcm、書簡の横の長さは全体の寸法と、()にて紙ごとの寸法を記した。クリップ留めなどで複数の資料が括られている場合、一括の欄にその旨記した。
参考として、『廓堂片影』(教育研究会、1931年)から北條時敬の日記に該当記事がある場合に、日記の年月日を記した。

れに引き継がれたのであろうか。北條の日記によれば、大正6年8月31日に「引継事項」ができあがると、すぐに総長事務取扱となっていた小川正孝理科大学学長を呼び、「引継事項」を説明している。また10月14日には第三代総長に内定した福原鐮二郎が北條宅を訪れ、数人の面会者を謝絶して「引継事項ノ大要ヲ説述」している。現存する『引継事項』は、筆跡と内容から本文は北條の直筆であり、同様に異筆の追記は福原のものであろう。よってこの『引継事項』は北條から小川を経て福原に渡されたもの、あるいは北條から福原に直接手渡されたものと考えられる。

一方、引継書類については、北條が仙台を離れた9月2日以降の書類も含まれているが、それらは大正6年10月15日の福原総長就任日と同じ15日の日付や同16日の日付、あるいは日付は記されていないものの記載内容からこの時期の作成と推定できる。これらは明らかに福原の総長就任を意識して作成されたものであり、引継書類は北條総長在任時の書類と福原の総長就任時の書類により成り立っている⁽⁶⁾。引継書類は当時現用の文書も含まれることから、北條から小川を経て福原に渡され、福原総長就任時に追加増補されたと言えよう。以下、今回新たに見つかった引継書類を中心に、その主な内容紹介を兼ねながら、それらを北條の日記や『引継事項』により史料的に位置づけ、北條総長期東北帝大の様々な問題や課題について見ていく。

二 医科大学の設置と附属医院の問題

『引継事項』には「(二) 医科 附医院」という項目が立てられており、また引継書類には『医科創業経営書類』とする袋がある。表1の通り、『引継事項』の「(二) 医科 附医院」には9つの一つ書きが記されているが、そのうち「敷地拡張」「解剖教室ノ玄関ニ関スル件」「山川氏伝染病講座ノ件」「泌尿器科講座ノ件」などは『医科創業経営書類』には該当する書類が見ら

れない。一方「病院増築案」は「医科大学附属医院増築図面」(2-9)、「医科学生募集ノ方法ハ大正七年ヨリ改正ノ必要アラン」については「東北帝国大学医科大学医学科入学ニ関スル希望」(2-3)、「東北帝国大学医科大学入学手續ニ関スル件」(2-4)などが参考資料となったであろう。「生理学配当金ノ増加」「解剖学ニ配当金ノ件」については「四年度五年度医科大学経費配当一覧表」(2-10)、「医大各教室経費現在残」(2-8)が同じく参考資料となる。また『引継事項』の「病院処務ノ改革及情実打破」については、引継書類の『一般経営書類』に収められた事務官黒田賢一郎による「人事ニ関スル件」(1-8)に医科大学附属医院の事務に関する問題点が記されている。ここから『引継事項』と引継書類は、ともに北條総長の引継文書ではあるものの、両者がまったく一致しているわけではないことが明らかとなる。

『医科創業経営書類』には、医科大学の開設と附属医院の運営に関する資料も含まれている。医科大学は大正4年7月14日に開設するが、これは仙台医学専門学校を改組した東北帝大附属医学専門部を、さらに換骨奪胎したものであった。建物や設備は医学専門部のものをそのまま継承し、生徒と教員は医学専門部とは全く別に、入学と採用が行われた⁽⁷⁾。『医科創業経営書類』には医科大学設置に関して、その準備しなければならない事柄のメモが残されている。

医科大学開始ニ関スル準備事項

- 一 医科大学規定ノ認可ヲ受クルコト
- 一 官制ヲ改正スルコト (勅令)
- 一 医科開始ヲ公布スルコト (省令)
- 一 授業開始ヲ公布スルコト (省令)
- 一 講座 (〈大正四年度開始ノ分〉) 設置ヲ公布スルコト (勅令)
- 一 講座給ヲ定メ許可ヲ受クルコト
- 「〔合点〕」
 - 一 教授、助教授、助手、書記以下任命ノコト
- 「〔合点〕」
 - 一 医専教授トノ兼官者ヲ定ムルコト
- 「〔合点〕」
 - 一 医院長、薬局長ヲ定ムルコト
- 「〔合点〕」
 - 一 現在医院ノ院長、医長以下本官ヲ有スル者ニ、手当ヲ給スル規制ノ存続時期
- 「〔合点〕」
 - 一 医院事務監督ノ選任
- 一 医科大学、医専ニ実際配置スヘキ事務員ノ員数及人選 (教務、庶務、会計)
- 一 医院ノ名称変更ノ時期ヲ定メ置クコト
- 一 初年収容学生ノ範囲
- 「〔合点〕」
 - 一 医専薬学科残員ノ減員、及医学科残員ニシテ大学ニ残留セサル者ヲ定ムルコト
- 一 図書館幹部ヲ本部ニ合併ノコト
- 一 学生監ハ理科トノ関係アリ、其人選ノコト
- 一 初年ニ於ケル生理、細菌、薬物教室ノ仮設場所ヲ定ムルコト (2-2)⁽⁸⁾

内容的には医科大学開設に関わる法令のことや人事のこと、特に医学専門部との関係、また附属医院に関することが項目として挙がっている。このメモには日付が記されていないが、合点の追記が鉛筆書きにて記されており、ある時点での状況を記したものと考えられる。これら

のうち「医科大学規定ノ認可ヲ受クルコト」について、これは大正4年5月14日から手続きにはいるので⁽⁹⁾、合点を付したのはそれ以前であり、文書が作成されたのはさらにさかのぼる。

また上記項目には「初年収容学生ノ範囲」というものがあり、合点が付されていない。5月中旬には学生募集要項がまだ決まっていなかったのである。これについて「東北帝国大学医科大学医学科入学ニ関スル希望」(2-3)に入学資格や入学試験に関する「希望」が記されている。大正4年4月16日、北條総長は文部省の高等学校長会議に出席し、医科大学開始につき意見を述べ、「マタ諮詢スル」と日記に記されている。さきの「希望」はおそらくこの時の高等学校側の希望ではなかったか。コンニャク版であり、北條総長ほか会議の出席者に配布したのではなかろうか。これに対して東北帝大では、「東北帝国大学医科大学入学手續ニ関スル件」(2-4)を作成、これもコンニャク版にて印刷して、各高等学校へ配布したと思われる。

また附属医院は、仙台医学専門学校時代には県立の宮城病院として運営されていたが、学校が明治45年に東北帝大医学専門部となり、病院も大正2年に宮城県から東北帝大に寄附され医学専門部附属となった。しかし名称は宮城病院をそのまま名乗り、大正4年7月14日医科大学開設と同時に医科大学附属医院となって、宮城病院の名は消滅する。このような経緯から大学にとって病院にはさまざまな問題があると見えたようである。医院事務についても「医院ハ大体ニ於テ医専系、旧宮城病院系ノ残員勢力ヲ張り其間種々好マシカラザル風聞ヲ耳ニス」(「人事ニ関スル件」(1-8))などというように派閥争いがあったようだった。大正5年6月21日北條は医科大学の臨床系教授を集め、山形仲藝医科大学長を委員長として附属医院の「完全ヲ期スル為メ」取調委員会を発会する。その第1回会合を7月6日、第2回会合を同13日に開催し、次の「医院施設其他改良事項案」を決定している。

「医院改良決定」

「大正五年七月六日第一回 七月十三日第二回」

医院施設其他改良事項案

「1」一、看護婦増員並待遇ノ方法 「(明細委員ニ託ス、明城キ加藤キ)」

「2」一、各科看護婦ノ定員ヲ定ムルコト、同時ニ専属又ハ共通ノ常備雑使婦ヲ置クコト 「(同上)」

「3」一、第二外科手術室ヲ設クルコト

臨床講義室又ハ医専事務室ノ幾部ヲ利用シ、各室ノ融通ヲ為スコト

「4」一、各科ニ医局ヲ設クルコト 「可決」

「5」一、常用患者ノ配当ヲ定ムルコト 「本年度ハ現状決定ノ通」

「6」一、産婆講習所ヲ医院ニ設置スルコト 「明城氏ニ明細ヲ託ス」

「7」一、看護婦ノ使用及取締ヲ各科ニ移スコト

「現状ノ通ニテ差支ナカラシ、但シ第一項第二項ト同ジ」

「8」一、医員補、医員副手、医員介補ノ大学助手ノ指揮ノ下ニ置クノ可否

「(医局ニ主任ヲ置クコト、之ニテ解決セン)」

「9」一、レントゲン室移転ノ件 「(来年度ニ譲ルコト)」

「10」一、外来診察時間ヲ励行シ、特別ノ事情アルモノ、外、時限後ハ一切患者ヲ受

付ケザルコト 「(午前十一時限リトス、但危急ノ場合ハ此限ニアラス)」

(2-6)

これにより第二外科手術室や産婆講習所を設けること、各診療科に医局を置き、医局には大学助手が主任として医員補、医員副手、医員介補の指揮に当たること、救急以外は午前11時までの外来診療時間を励行することが決められた。また看護婦の増員と待遇、各科の定員・雑使婦関係については、明城弥三吉・加藤豊治郎を委員として詳細を詰めることにした。それが次の「看護婦ニ関スル件」である。

看護婦ニ関スル件

- 一、看護婦ニ等級ヲ区別スルコト 「一、二、三等ニ区分」
- 二、他病院又ハ検定ニテ看護婦ノ資格ヲ得タル者ノ採用ノ件 「(履歴ニ依リ現在員ニ対照シ、等級ヲ定ムルコト) 但シ已ヲ得サル場合ノ外、可成不採用ノ方針」
- 三、看護婦欠勤届ノ件 「(医局へ先ツ提出シ、後ニ事務へ廻スコト)」
- 四、看護婦ハ俸給トシテ月手当ニ変更スル件 「(俸給出度)」
- 五、看護婦義務年限短縮ノ件 「(従来ノモノハ従来ノ年限、六年度新任ノ分ハニヶ年)」
 「〔頭注〕^{〔合点〕}本年度施費明細ノコト」
- 六、看護婦食費ハ自弁、生徒ニハ食費支給ノ件 「三五〇〇 小使〈日五銭・日八銭〉」
- 七、看護婦同生徒服洗濯ハ官費トスル件 「(院内ニ仕上一切ノ設備ヲナスコト、但来年度ヨリ、本年度ハ仕上ヲ除キ院費トスルコト)」
- 八、洗濯方法
 「他ヨリ入レタル」
- 九、看護服ノ地質ヲ上等ノモノヲ用ヒル件 「(可)」
 「〔頭注〕一ヶ月一三円増、本年度三五七円増(宿直料廃止ニ付差引)」
- 十、看護婦俸給増俸ノ件
- 十一、「他ヨリ雇入レタル」看護婦採用初年ハ帽服増与ノ件 「(初年ハ三着貸与)」
- 十二、東三号勤務看護婦、両内科へ所属セシムル件 「(三ヶ月交替、両内科所属、加給二円、希望ニ依リテハ延長スルコトヲ得、尚医局ノ意見ニ依ルコト)」
- 〇十三、看護婦生徒学資ヲ日給ニスル件
- 十四、年末賞与ニ関スル件(内規) 「(標準ヲ一ヶ月二分トシ、医局ノ意見ヲ聞き斟酌スルコト)」
 「〔頭注〕中途退職者ノ慰労額ヲ前ニ定ムルコト」
- 十五、勤続看護婦退職手当ニ関スル件(内規) 「(勤務後一ヶ年ヲ経タルモノハ一ヶ月分ニ及、一ヶ年毎ニ三分ノ一ツツ加給)」
- 十六、休暇ヲ十日(一ヶ年ニ)ニスル件 「(可)」
 「〔頭注〕^{〔合点〕}婦長ノ権限ヲ決メルコト」
 「〔頭注〕^{〔合点〕}外ニ医局主任ノ権限ヲ決メルコト」
 「〔頭注〕^{〔合点〕}看護婦養成主任ヲ置クコト」
 「〔頭注〕^{〔合点〕}妊婦産婦ノ託子治療ヲ無料ニテ診察及往診スルコト」

十七、各科へ一名宛婦長ヲ置クコト 「(可)」

○十八、附添婦ヲ一般ニ廃止スル件 「(本年度ハ学用ノ附添ハ官費トス)」

○十九、各病棟ニ雑使婦ヲ置ク件 「(各病棟ニ二名宛置ク、看護婦長ノ指揮ヲ受クルコト)」

二十、一般郵便物及請求物ハ看護婦及同生徒使用セサル件 「(重要ノモノハ事務員之ヲ配達スルコト) 其他ハ雑使婦ヲ使用スルコト)」

二十一、看護婦及同生徒ニ徽章ヲ交附スル件 「(可) (長、看、生学ノ区分)」

二十二、看護婦第三釦左胸部ノ小切ヲ鑑付クル件 「(可)」

看護婦等級表

三等看護婦		二等看護婦			一等看護婦		
義務年限		第三年	第四年	第五年	第六年	第七年	第八年
第一年	第二年						
9.00円	10.00	12.00	13.50	15.00	17.00	18.50	20.00

以下略ス

(2-7)

原本はガリ版の印刷物だが、上記のように余白に鉛筆にて追記されており、話し合いの結果が記されていると考えられる。これにより看護婦の等級が定められ、月給として俸給が支払われることになる。各診療科には婦長が置かれ、雑使婦もその指揮に従う。また俸給の増俸、年末賞与や退職手当の支給、年休の付与、看護婦養成所卒業者の義務年限の短縮、食費や洗濯についてなど、さまざまなことが話し合われ決められた。

以上の医院や看護婦に関する改良案について、大学側も「医院ニ関スル改良案中、先第一着トシテ過般来、臨床関係ノ教授会ニ於テ決定シタルコトハ、大体ニ於テ是認スヘキモノ」(「引継演舌書」1-6)と認識し、「看護婦ニ関スルコトハ、医院規程ノ改正ト為サズシテ、既ニ御決裁ヲ得テ実行シアル」(同)という状態であった。特に看護婦の制度改革は、今回の医院改革の中核と言えよう。これらはまた、済んだことだからなのか『引継事項』には見えず、北條の日記にも具体的内容は記されていない。医院の当時の様子を知る上で大変貴重と言える。

三 事務官のみた東北帝大の課題

大正5年(1916)10月2日、東北帝国大学事務官黒田賢一郎が辞職する。同年8月16日北條は理科大学の小川正孝・林鶴一両教授を呼び、「特別任務」を命じて各方面の取り調べを行わせている。これは「人夫ノ件」など金銭出納の問題であり、26日に黒田は「懺悔」して自らの非を認めている。30日には新たに「人夫使用ノ六件」が発覚し、北條は黒田に答弁を求めるが黒田は回答に難色、9月2日北條は黒田に対して「至理ヲ以テ難詰シ、反省ヲ求ム、本人憂色アリ、悄然トシテ退席」したという。5日には学内の調査を終え、29日に文部次官に「不当支出取調ノ内申書」を提出する。文部省には調査状況を逐次報告しており、27日には黒田免官決定の電報が北條のもとに届いている。10月2日に黒田は免官となり、翌3日に北條は黒田に対して引継のことを内談し、4日に「事務官担当ノ事務引継」を終えている。よって次の資料は、大正5年10月4日に黒田から北條へ手渡されたものであろう。

引継演舌書

- 一 理科大学書記一人欠員アリ、至急補充ヲ要ス、但自ラ事務ニ従事スル事務的人物ナルベキコト
- 一 会計課第二係ニ簿記専門ノ雇員一人欠員アリ、至急補充ヲ要ス
- 一 予算ニ関スル参考書類一括
- 一 農科大学ニ関スル未完結書類 件
- 一 学生監專任一人官制未發布ナリ
- 一 薬品費補充、臨時事件予算費ヨリ支出ヲ受クルコト
其額ハ未定ナリシモ前年度（約一二〇〇〇円）以上ノ額ナラン
- 一 医院五年度予算不足ナリ、故ニ収入支弁ヲ以テ歳出ノ増加予算ヲ文部省へ交渉ヲ要ス
- 一 医院ニ関スル改良案中、先第一着トシテ過般来、臨床関係ノ教授会ニ於テ決定シタルコトハ、大体ニ於テ是認スヘキモノト思料スルモ、尚御詮議ノ上決定セラレ、医院規程ノ改正ヲ文部大臣ニ稟請セラレタシ（書類二通添付）
但此決議事項中、看護婦ニ関スルコトハ医院規程ノ改正ト為サズシテ、既ニ御決済ヲ得テ実行シアルモ、規程改正ノ際ハ之ヲモ一切包容セラレタシ
- 一 杉村外科配当予算、令達高ヨリ實際ノ使用高既ニ超過セルコトヲ聞及ブ、何トカ適宜ノ方法ヲ講セラレタシ
- 一 理科ノ配当予算ハ神津教授帰朝ノ其改定方ニ付、更ニ教授会ヲ開クコトハナリ居レリ、追テ教授会ニ付セラレタシ
- 一 佐藤学士發明ニ係ル「セルロイド」類似品研究製造ニ付、佐藤学士ト塩原又作氏トニ協議要録壱通及関係書類一括
- 一 医科大学経費配当ニ関スル教授会決定書一括
- 一 大学経営ニ関スル意見書及付属文書一括
- 一 大学ニ於ケル文書記録ノ編纂未タ着手セス、現在ノ常務員ニテハ之ヲ処理スルノ余暇ナシ、故ニ臨時雇員ヲ以テ常務ノ一部ニ従事セシメ、庶務会計ヨリ編纂掛員ヲ命セラレ且編纂規程ヲ定ムルヲ要ス
- 一 図書館医科分館規程及之ニ関スル細則ノ改正ハ、医科分館ニ於テ取調中ナリ
- 一 各部局ニ土地建物ノ監守者ヲ置ク必要アリ、追テ人選ノ上命セラレタシ
- 一 契約担任官吏ハ、既ニ〈小生〉名義ヲ以テ締結シタル契約ハ、〈小生〉退官ト同時ニ其權利義務ハ当然総長ニ帰移シタルモノニシテ、此際何等ノ手續ヲ要セス、又後任事務官ニモ移ラサルモノト思料ス
- 一 塩原又作・佐藤定吉ノ協議要録ニハ、井上仁吉氏ト〈小生〉ト個人ノ資格ヲ以テ立会人トナリ調印シアリ、故ニ此際何等變更ノ要ナシ
- 一 荒井泰治寄附金三万円ハ、大正五年度（大正六年一月）ニ於テ五千元ヲ受クレハ完了ス、其時ニ於テ三万円寄附ノ件、賞与方ヲ地方庁ニ通知スヘキコト

右及引継候也

大正五年十月

東北帝国大学総長北條時敬殿

黒田賢一郎

(1-6)

黒田賢一郎は明治44年1月の「東北帝国大学官制」により置かれた初めての事務官であり、仙台で理科大学が設置された当初からの事務官であった。上記「引継演舌書」にあるように、彼の職務はほとんどが仙台の本部および理科大学と医科大学に関することであった。札幌の農科大学に関しては「農科大学ニ関スル未完結書類」とあるだけであり、しかも黒田はそこに件数を記入しようとしてできなかったようである。もちろん農科大学から総長への上申文書はあるものの、仙台で農科大学の書類を体系的に掌握はしていなかったと思われる。またここで注目されるのは、当時懸案となっていて大学としてやらなければならないこと――理科大学書記の補充、医院予算増加交渉を文部省に行うことなど――のほか、事務官手持ち文書の北條への引継目録―「予算ニ関スル参考書類一括」など―が記されている点であろう。「引継演舌書」一つ書きの8項目「一 医院ニ関スル改良案中～」に記された「書類ニ通添付」とは、まさに先に引用した「医院施設其他改良事項案」と「看護婦ニ関スル件」のことであり、北條の引継書類には黒田から引き継いだものも相当含まれていると言える。

黒田は上記「引継演舌書」のほか、「施設其他計画ニ関スル卑見」と「人事ニ関スル件」を辞任に当たり残している。いずれも黒田が見た当時の東北帝大の問題点であり、解決すべき課題とされた。このうち「施設其他計画ニ関スル卑見」を次に記す。

施設其他計画ニ関スル卑見

- 一 本部事務室ヲ長ク現在ノ講堂ヲ使用スルトセバ、多少ノ模様替・修繕ヲ施スヲ要ス、其事由左ニ
 - 一、御用商人以外ノ商人及一般人ヲ、猥リニ出入セシメザルコト
 - 二、金券ノ受渡ハ、窓口ヨリ外部ノ土間ニ向テ之ヲ為スコト（郵便局、銀行ノ如シ）
 - 三、新聞記者ノ控室ヲ設クルコト
- 一 新聞記者材料ノ談話ハ、総長・事務官（教授ハ自由）ノ外、一切之ヲ禁シ、現今ノ如ク常ニ事務員等ト雑談シ、執務ニ妨害ヲ与ヘ、又ハ書類ノ偷見等ヲ妨クコト
- 一 医科大学各教室専属ノ雇員以下傭人ハ、遅クモ来年度ヨリ其定員ニ依リ予算ヲ配当シ、教授ノ意見ニ依リ進退ヲ行フヲ可ト思料ス、現在ニ於ケル状況ハ、学長余リニ些細ノ事務ニ干涉シ、学長自身ニ在テハ常ニ煩瑣ニ堪ヘザルベク、各教授ニ在テハ事ノ敏速ヲ欠キ、延テ不平ヲ惹起スルコトナシトセス、御熟考ヲ要ス
- 一 臨床科ニ於ケル各教授ノ配当経費ハ、従来医科大学ノ会計係ニ於テ取扱ヒタルモ、来年度ヨリハ之ヲ医院ノ会計係ニ於テ取扱フヲ、便宜且至当ト認ム
但現在ノ医院会計員ニテハ、之ヲ取扱フノ能力ヲ欠キ居レリ
- 一 解剖ノ長谷部助教授ニハ、講座ヲ分担セシメラルルヲ至当ト思料ス (1-7)

当時の本部事務は理科大学講堂の建物を使用していたが、これを黒田は問題とし、修繕・模様替えすべきであるとしている。理由としては、御用商人以外の商人や一般市民がみだりに事務室に出入りし、同じく新聞記者が事務員と談話して執務に妨害を加え、また書類を盗み見していることを挙げている。よって外部の人間は事務室に入れなくし、金券などの受け渡しには銀行のような窓口を通して行い、新聞記者には控え室を設けて、談話は総長・事務官・教授の

ほか一切禁止するという。また事務官から見ても医科大学長はあまりに些細な事務に忙殺され、ために教授たちの要求を迅速に行うことができず、彼らの不平の原因となる可能性を述べている。実際、この翌年5月には医科大学長井上嘉都治と布施現之助教授がいさかいし、一時井上が学長職の辞意を表明する事態となった⁽¹⁰⁾。

「引継演舌書」以下「施設其他計画ニ関スル卑見」と「人事ニ関スル件」は、仙台の初代事務官黒田によるものだけに、東北帝大の内部事情や問題点を赤裸々に記している箇所もあり興味深い。

四 北條総長の大学計画

北條総長は毎年6月から7月にかけて、次年度の予算獲得のため文部省と折衝している。特に北條総長の時期は、医学専門部と工学専門部がすでに設置され、それぞれ医科大学・工科大学とする道筋が見えており、その具体的実施が求められる時期であった。大正2年(1913)7月23日に北條は文部大臣と面会し、大正4年の医科大学開設ののち、1年遅れて工科大学は大正5年開始とするよう求め、工科大学の「創業計画案」の提出を約束する。翌年5月22日北條は文部次官に「工科大学開始ニ関スル主義」を話す。緊縮財政のため工科大学の開設は延期される。大正5年6月8日、北條は文部省の大臣室にて参政官・専門学務局長列席のもと高田早苗大臣に「東北帝国大学経営ニ関スル意見」を説明している。理科大学応用化学科の設置と工科大学の新設を柱とする、包括的な大学経営の方針を示した北條の意見書であった。また大正6年7月31日北條は大臣に「東北大学完成計画」に関して意見書を提出する。内容は敷地の拡張と建物の新営であり、建物・設備に関しては工科のほか附属医院、地質学教室、本部、図書館、学生集会所、新寄宿舎など多岐にわたっていた。北條は「東北帝国大学経営ニ関スル意見」や「東北大学完成計画」などの大学計画を策定して、東北帝大の完成像を明らかにしていた。

これらのうち北條が大正5年6月に「東北帝国大学経営ニ関スル意見」を大臣以下に説明した時のメモとして、「意見書提出ニ伴ヒ口述スベキ條目」が残されており⁽¹¹⁾、これには「綜合大学ノ本義、實現ト學術ノ研究」とか、「研究ノ氣風ヲ盛ンニシ、學術進歩ヲ図ル要件」など、研究重視の姿勢が見られる。特に北條は「研究ノ氣風ヲ盛ニシ、學術ノ進歩ヲ促ス為ノ要件」として、第一に人材、第二に「財力ノ供給」を挙げており、研究費の重要性を認識していたものと思われる。同年10月21日北條は医科大学にて教授を集めて「研究奨励補助ノ事」を話すと、11月7日布施現之助・西成甫両教授は研究材料の購入費を北條に申請する(4-2・3)。北條は11月11日これらを学士院に対して東照宮三百年祭記念会の研究補助金要求として提出した。

またこれとは別に大正5年9月30日、北條は文部省会計課長に次年度予算の項目を確かめるついでに、本年度追加予算として予備金から薬品費を出してくれるよう督促し、11月4日にも同じく会計課長と話している。この薬品費要求の根拠となったのが「実験費(薬品)配当予算不足額調」(1-4)であろう。各部局の教室あるいは学科ごとに不足額が調べられている。

北條の「東北帝国大学経営ニ関スル意見」では、東北帝大は理科大学・医科大学と札幌の農科大学、仙台に新設の工科大学によって形成されるべきだとした。しかし札幌では農科大学の独立運動が盛んとなり、両方で意見を闘わせることになる。北條は7月18日理科大学卒業式

出席のため来仙していた文部大臣と北海道大学問題について談話し、帰京の大臣とともに北條も上京、19日大臣室にて次官・局長列席にて北海道の独立とそのための医科大学新設について意見を述べる。さらに翌20日札幌から上京した北海道庁長官俵孫一、農科大学長佐藤昌介、札幌区長阿部宇之八らを交え話し合い、俵は医科大学創業費の調達方法について述べ、一方北條は北海道大学は時期尚早であり医科は不急であると意見を述べている。この北條が意見を述べる根拠としたのが、札幌税務監督官に依頼した調査であり、7月12日に「北海道近年発達形勢ノ調べ書」ができあがった旨、通知が来ている。

取調事項

一 北海道近時戸口増加ノ趨勢

附道庁毎年ノ招致スル移住民戸口数ノ制限

一 開墾反別増加ノ趨勢 附将来開墾シ得ル原野ノ予想反別概数

一 牛馬頭数ノ累年増減

以上

右三項、最近四五年間ノ統計数字ニ付取調

(1-3)

調査結果の具体的内容は不明ながら、北條は上記項目について調査を依頼したものと思われる。結局、独立運動が実り、大正5年8月2日に農科大学は分離され北海道帝国大学として独立することが閣議決定される。

このおなじころ「東北帝国大学経営ニ関スル意見」により、北條は年度割り継続事業として工科大学の設立を文部大臣に要求し、7月24日には大臣から「及ブ限り尽力スベシ」と回答を得ている。しかしそれまでの第二次大隈内閣に代わり、寺内内閣によって大正6年度予算案が議会に提出されるが、大正6年1月25日衆議院解散となり、予算案は不成立となった。よって大正6年度の追加予算が組まれることとなり、次の資料はこの時のものと思われる。

大正 年2月5日

六年度予算 〔『○』ハ病院追加予算同様、『◎』ハ六月議会ニテ不成立ノ場合同断〕

一、認メラレタルモノ

經常費

(1) 医科大学学年増加ニ伴フ経費 (三年級新設) 52,200

(2) 理科大学応用化学科教室ニ伴フ経費 8,923ノ内8,343

(書記一名ノ増加ハ非認)

臨時費

(1) 医科大学校舍新営 138,900

前年度予算ヨリ金額少キニヨリ、仮令六月ノ臨時議会ニテ不成立トナルコトアルモ、予備金支出等ノ問題ヲ生セズ

(2) 理科大学化学実験室新営及応用化学科新設費 60,000

内訳 29,200 建築費

	30,000	設備費	
	800	事務費	
右ハ要求額			
二、非認サレタルモノ			
經常部			
(1) 理科大学化学科講座増加 (分析化学)	4,217		
(2) " 学生数増加 (学級増加ニアラズ) ニ伴フ経費	2,680		
(3) 理科大学応用化学科設置ニ伴フ経費ノ内書記増員一人分	580 (前出)		
(4) 分科大学増設ニ伴フ経費			
(a) 司書官 一名	1,800		
(b) 書記平均俸給増加	1,400		
計	3,200		
(5) 学術研究奨励ニ干スル経費	2,400		
合計	16,277		
(6) 医科大学設備費 50,000中20,000			
合計	18		
合計	36,277		(1-9)

この文書を書き始めた時は、冒頭の○と◎で内容により印を付けるつもりだったようだが、本文中に印は見え、代わりに文章で記されている。また最後の合計を何度も書き間違えていることと合わせ考えると、これは文部省大正6年度追加予算案の東北帝大分決定の第一報を記したメモ書きではないだろうか⁽¹²⁾。これと同じ内容は「大正六年度予算増加要求額内訳」(1-10)にも見えるが、こちらはきれいに清書されており、日付が記されていない。この時、建物としては医科大学の校舎新営、理科大学の化学実験室新設、設備としては理科大学応用化学科に認められた。また認められはしなかったが、「学術研究奨励ニ干スル経費」⁽¹³⁾を要求していたことは注目される。史料中に見える「六月議会」「六月ノ臨時議会」とは、大正6年6月21日召集の第39特別議会のことであり、大正6年度追加予算案は7月7日に可決されている。

大正6年度追加予算の提出内容が固まると、北條は早速大正7年度予算の策定に取りかかる。大正6年2月12日には大学の中島技師を呼び、図書館新築の見積もりについて意見を聞き、2月22日には同じく中島に図書館、集会所、寄宿舎の設計について話し合い、5月9日には事務官・中島とともに大正7年度予算要求の方針を決めている。6月12日以降、医院増築の話し合いが数回行われ、30日にその計画案を内定している。この時決定した計画案が、おそらく「医科大学附属医院増築図面」(2-9)であろう⁽¹⁴⁾。以上のような調査・話し合いにより、北條は「東北大学完成計画」を策定し、7月31日大臣に提出したことは前述の通りである。

医科大学が医学専門部を土台にして設立されたと同じように、工科大学の設立は工学専門部の廃止を意味していた。大正6年8月7日、北條は宮城県知事・仙台市長以下有志者を集め、そのことをはっきりと伝える。しかし一方で工専存立の道がないわけではないとし、地方から「多額ノ創業費」の寄附があれば存立の可能性はあると述べた。北條は「此会ノ効果予期ノ如

シ」と日記に記しているとおり、翌日市長と県会議長が北條を訪れ、「工専存続ニ付テ寄附ノ願ヒ並ニ金額内談」を行っている。

土木・機械・電気

一 金参拾萬円也

内訳

名称	構造	坪数	単価	小計
敷地買上費		10,000	10.00 円	100,000 円
事務室及教室	木造二階建	400	250	100,000
実習室	木造平家建	450	150	67,500
機関室	煉化平家建	60	250	15,000
周囲境界砂利敷排水等				8,000
事務費				10,000
				(3-28)

この資料は工専存立のため、北條が予め地方からの寄付金の額を知る必要から、調査したものではなかったか。土木・機械・電気とは当時の工専の学科そのままであり、これには敷地買上費、事務室及び教室などの建築費が明記され、合計 30 万円となっている。また土木・機械だけの見積もりもあり、こちらは 20 万円となっている (3-29)。ともに「文部大臣官房建築課」の便箋を使用しており、北條が文部省の建築課に見積もりを問い合わせたのであろう。8 月 16 日北條は文部大臣と大学完成計画について話し合うが、ここで北條が「大臣ノ意志奇異ナルモノ」として地方寄附を 15 万円としたことを挙げているのは、今見たように工専存立のためには 30 万円から 20 万円必要なのに、15 万円としたことではなかったか。これはつまり学科の削減を意味し、『引継事項』(表 1)によれば、「一 工専存置」の項目に「土木及機械ノ二科ヲ存ス」と記されている。

医学専門部・工学専門部(専門学校)の大学化は、別に専門学校を設置する、あるいは設置する余地があるのではないかという世間の期待を生んだ。

八月二十三日午後八時三十分着

訳文

市会ニ於テ医学専門及工学専門学校、本市ニ設置請願ノ建議決シ、委員上京請願ノ筈、御配慮懇願ス

盛岡市長北田親氏発

(3-31)

大正 6 年 8 月 23 日盛岡市長から北條充てに電報が届く。内容は、盛岡市会で医学専門学校と工学専門学校を盛岡市に設置する請願の建議をしたので、委員が上京するはずであり、北條の配慮を願うというものだった。8 月 25 日市長と岩手県参事会員が北條を訪れ、高等工業学校および医学専門学校増設と東北地方の関係につき質問があり、北條の答弁があった。

草創期の帝国大学は具体的方向性も未だ固まらず、総長の意向によるところが大きかった。それは毎年の来年度予算獲得に端的に表れ、そこで将来へのヴィジョンをいかに示し、文部省の大臣以下次官・会計課長・参政官ら首脳部を説得することができるかにかかっていた。北條の時点ではすでに「研究重視」という東北帝大の大きな方向性は決まっていたが、それを具体化する個々の案件については手探りの状態であったと言えよう。分科大学の設立準備として同時に設置された医学専門部と工学専門部が、まったく反対の道を歩むことになったのは、まさにそのことを表している⁽¹⁵⁾。

おわりに

北條は「引継事項」について大正6年8月31日に調え終え、「書類」については前日の30日に点検していた。北條総長の引継文書としては、「引継事項」が主であり、「書類」が従の関係にあるが、現存の『引継事項』には項目のみ記され、内容が記されていないものもあり、これらは口頭にて説明したものと思われる。また引継書類は『引継事項』に沿ったものではなく、その意味では参考資料的性格が強い。しかし引継書類は、過去の重要文書や当時進行中の課題について個別具体的な文書、あるいは新任総長福原のために概要をとりまとめた文書など、『引継事項』では窺い知ることができない、豊富な内容で構成されており、草創期東北帝大の実態を示す好個の資料であると言えよう。

そこから伺えるのは、医科大学の開設や県立宮城病院を引き継いだ附属医院をめぐる問題、またこれらを含めて初代事務官黒田により指摘された大学内の問題点、予算獲得と密接な関係にあった北條総長大学計画の具体的内容、また本稿では触れ得なかったが、臨時理化学研究所への寄附とその研究成果の事業会社サトウライト株式会社設立に関する経緯など、新設された帝国大学のさまざまな取り組みと試行錯誤の実態である。本稿ではその一端を紹介したに過ぎず、引継書類記述内容の具体的な大学史における位置づけなどは今後の課題である。

-
- (1) 大学草創期の資料については近年、『創立期大学史資料の特色』（研究叢書第9号、全国大学史資料協議会、2008年10月）が、いくつかの大学の事例を紹介している。
 - (2) 『廓堂片影』教育研究会、1931年。以下北條の行動については、特に断らない限り『廓堂片影』「第四部日誌及紀行」による。
 - (3) ここに紹介する北條の引継書類について、資料としての基本的な性格としては、寺崎昌男氏の分類のうち「1）大学運営の歴史を示す公的文書、簿冊、事務記録、その他の文書」に該当するであろう。寺崎昌男「大学アーカイヴズとはなにか」（『東京大学史紀要』第4号、1983年）、永田英明「大学アーカイヴズ資料論」（全国大学史資料協議会編『日本の大学アーカイヴズ』、京都大学学術出版会、2005年）参照。
 - (4) 北條の履歴については、『廓堂片影』「第六部 年譜」参照。
 - (5) 『引継事項』の冒頭の部分は、『東北大学百年史 通史1』第6章「臨時理化学研究所の設置」に翻刻されている。
 - (6) 福原総長就任時の書類が入っていることから、北條の手持ち書類だけでないことは明らかなが、北條の総長在任時の書類でも例えば「協議要録」（3-3）などは事務官黒田賢一郎が辞職する時に北條に引き継がれたものであった（「引継演舌書」1-6）。
 - (7) 『東北大学百年史 通史1』第5章「医科大学の設置」。
 - (8) 以下資料の引用について、表2の番号を付した。また引用資料中の記号について、〈 〉は割書を、「 」

は追記または異筆を、『 』は朱筆を、〔 〕は筆者が付した校訂注を示す。読点と並列点は筆者が適宜付した。

- (9) 『医学部関係規程綴 自大正二年度至昭和二十年度』（東北大学史料館蔵）
- (10) 『東北大学百年史 通史 1』第5章「医科大学の設置」。
- (11) 『廓堂片影』「第一部 訓辞類」。
- (12) 大正6年2月8日の『国民新聞』によれば、「北海大学設立追加予算提出内定」として、岡田文部大臣が北海道帝国大学の設立予算を臨時議会に提出することに決定したと伝えている。大正6年度追加予算の原案がこの時期固まったことを示していよう。
- (13) 「大正六年度予算増加要求額内訳」（1-10）によれば、これは「大学院学生」に関する経費であった。
- (14) この図面には年紀は記されていないが、『東北帝国大学一覧』巻末の「医科大学平面図」を参照すれば、既設建物は、大正6年1月20日発行の一覽所収平面図とほぼ一致し、大正6年12月20日発行一覽以前のものである。
- (15) 医学専門部の廃止については、拙稿「草創期東北帝国大学の研究重視路線―医学専門部の廃止をめぐって―」（『東北大学史料館紀要』第3号、2008年3月）参照。